



経済学部の現状と新たな取り組み

経済学部長 網倉 久永



2021年4月より、経済学部長を拝命した網倉久永（あみくら ひさなが）と申します。経鸞会の皆様からは、日頃から経済学部にも多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。微力ながら、経済学部の一層の発展に尽力していきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

改めて申し上げるまでもなく、2020年度は異例の一年でした。授業は原則オンラインとなり、キャンパスへの入構も厳しく制限されておりました。2021年度からは、感染防止策を徹底したうえで、小規模な授業から教室での講義を復活させ、学内での課外活動も再開できるようになります。ただし、まだ気を緩める訳にはいかない段階ですので、学部としても引き続き感染防止を徹底していきたいと考えております。

こうした大変な状況のなかであっても、経済学部では新しい試みに挑んでおります。

なかでも特筆すべきなのは、2020年度秋学期から、SPSF（Sophia Program for Sustainable Futures）第一期生の入学者を迎え入れたことです。SPSFについては経鸞会の皆様にもすでにご案内かと存じますが、新聞学科・教育学科・社会学科・経済学科・経営学科・総合グローバル学科が共同で実施する、新しい学位プログラムです。SPSFでは、すべての授業が英語で行われ、入学タイミングも4月の新年度ではなく、秋学期からとなっています。経済学部では、経済学科が先行して、2020年秋に第一期生7人（うち外国籍3名）を迎え、新一年生向けの教育プログラムがスタートしました。経営学科でも着々と準備を進めており、2022年秋から第一期生を受け入れる予定です。

SPSFプログラムでは、経済学・経営学の専門科目に加えて、メディア・教育・社会・地域研究など他分野の講義科目も学び、領域横断的な知見を獲得してもらうことを目指しています。環境・貧困・格差といった差し迫った社会問題を解決し、持続可能な社会を構築していくためには、さまざまな立場に置かれた人々の「実際の姿」を理解することが不可欠です。また、短期的にベストと考えられる、社会問題の解決策も、長い目で見た場合には「意外な副作用」をもたらすこともあります。

立場が違えば、また視野に収める時間幅が異なれば、「望ましい」と評価する内容が異なってきます。専門分野が異なる学生たちが議論するなかで、「他者」に対する理解を深めてもらいたい。SPSFが学部学科を越えた「学融合型プログラム」を標榜するのは、こうした願いに基づいています。

他者を理解し、社会問題の解決策を考えることは、「他者のために、他者とともに」という上智大学の教育理念に則したものです。他者を知り、理解するためには、学生諸君に多様な経験を積んでももらいたいと考えています。この点で、経鸞会奨学基金によって、勉学だけでなく、ボランティアや社会貢献・留学などの多様な経験を有する学生を奨学生として奨励できていることは、非常に有効だと考えております。

また、従来からの日本語プログラムに所属する学生向けには、経済学科・経営学科それぞれで「英語特修プログラム」を開設しています。「英語だけの授業」に興味・関心があっても、語学力の点で「ハードルが高い」と感じている学生が一定数存在します。英語特修プログラムでは、たとえば英語の教科書を用いながら、授業は日本語で行うなど、英語と日本語を併用しています。「ほぼ日本語」から「ほぼ英語」まで、両言語の混在比率が異なる授業科目を取りそろえることで、最終的に「英語のみ」の専門科目教育に向けた「橋渡し」となることを期待しています。英語特修プログラムに参加した学生が、世界に目を向け、留学や外国での勤務経験などを志してもらいたいと考えております。

経済学部では、教育目標「広い視野と先見性を持ち、国際的な場で活躍するリーダーとなる人材の育成」の実現に向けて、これまでの伝統を守りつつ、新たな試みにもチャレンジしております。経鸞会の皆様には、これまでと変わらぬご指導・ご鞭撻、またご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

憧れのイギリス田園生活 ~Cotswolds に魅せられて~

宮脇 巖 (1968年 経・経)

「イギリスは田舎」この言葉は意味深長だ。英国を旅した人は誰もが異口同音に“田園は実に美しい”と称える。自然の魅力もさる事ながら、そこには文化が花開き芸術の香りも漂い名所旧跡は枚挙に暇がない。ローマ人の歴史が今尚息吹いているし中世の古城やマナーハウスには貴族が21世紀の暮らしを営んでいる。心癒すイングリッシュガーデンも堪能できる。田園には英国の総てが凝縮されている。ロンドン駐在時代に慣れ親しんだ Cotswolds はその典型と云える。ミレニアムに沸く 2000 年 4 月 1 日 (エイプリルフール) に、New York から一変して英国の田舎 Winchcombe (ウインチカム) での私の第 2 の人生が幕開けした。

Cotswolds と云えば英国ファンならすぐ緩やかにローリングする丘で草を食む羊という風景を思い描くだろう。その通り Cotswolds は何処を切り取っても絵になる光景が展開される。「豊かな自然の恵みや歴史的遺蹟を維持するのは凄いエネルギーと労力が要るしお金がかかる」と人は云う。この事に一早く気づき警鐘を鳴らして 1895 年に設立されたのが国民が運営する非営利組織のナショナルトラスト。ピーターラビットの作者ベアトリクス・ポター他先人たちの強い意志と高い見識に依り自然の姿は護られてきた。その結果、現在の我々が多大な恩恵に与り享受している訳だ。「我々は Century (100 年) 単位で物事を考察して決断する」と語る英国人の言に納得するしかない。近所の童話作家リンダは「このきれいな水と澄んだ空気は priceless」と優しく論じた。お金では手に入らぬ程貴重なモノである事に気づかされたのだ。

扱て Foot Path をご存じだろうか。脚道 = 歩く道、人間の基本的な権利である歩く権利、自由に通行する権利の証 (あかし) である Foot Path の看板は到る所で目にする。私有地や畑、牧草地又は庭の一部を開放して何人もの通行を許すなぞ容易な事ではない。私なら二の足を踏む。彼らのフェアな精神と自由を尊ぶ心の豊かさが成せる技なのだろうか。かくいう私は家の裏のスードレイ城の広大な外庭を散策するのが日課としている。Cotswolds のショーピースの一つ Broadway の村外れに Kite's



Sudeley Castle (スードレイ城)



Kite's Nest Farm

Nest Farm (とびの巣農場) は在る。一山 (ひとやま) 全部が有機農場で、親子三人が経営し自給自足の生活を楽しんでいる。ロザムントが「このプーリーもうちの羊の毛で編んだのよ」と当然という顔で着ているセーターを見せた。90 歳になんなんとする母親 Mrs. Young (ヤング夫人) はチャールズ皇太子にも有機農法を伝授する位の先達。初対面の際、眼光鋭い未亡人は搾りたての有機ミルクを勧め乍ら「ここはこの世の理想郷。ここが一番よ。だから何十年も休暇で他所へ行った事なんかないわ」とあのモリスの言葉を重ねた。その日以来我家のビーフは変る事なく Kite's Nest Farm 製である。安心、美味、廉価これ以上望むべくも無し。地産地消の実践者である。

Cotswolds をドライブ中に時々 P. Y. O の文字が飛び込む。Pick Your Own いわゆる摘み取り



PICK YOUR OWNの看板

果樹園。好きな数量を摘んでその分を支払う方式だ。日本でパティシエをしている女性を案内した折、彼女は見慣れぬ果実の豊富さに目を見張り最後に箱から溢れんばかりのラズベリーの値段を聞いて驚天して放った。「日本ではこの量なら数千円します。わずか四分の一なんて信じられない。果実が高くて簡単にケーキに使えません。何という贅沢！」英国の伝統菓子はふんだんに果実を使うのが特徴である。そして摘んだ果実のジャム作りが待っている。苺に砂糖を入れる丈で自家製ジャムは出来上る。アクを取り乍らグツグツと煮る数時間は例えようもないほど充ち足りた気分になれる。これこそが真の豊かさの極みだろう。

Cotswoldsに暮らすという事は人気のAONB(特別自然美観地域)で毎日休暇を愉しむ様なもの。高価な旅費も宿泊代もかからず自由に物見遊山して過す日々。計り知れない豊かな生活をすでに手中に収めている事を感じてMrs. Youngのあの言葉“ユートピア”が実感できる。この興味深々魅力満点のCotswoldsを知れば知る程、日本の多くの人に紹介して案内したい気持ちが増して英国政府公認のガイド試験に挑戦。悪戦苦闘の末一年後Heart of England(ハートオブイングランド)のBlue Badge Guide(ブルーバッジガイド)資格を取得した次第である。



Blue Badge Guide 資格の証

日本の旅人を案内した際「ここは何も無い村なのね。自動販売機も無いのねえ」と不満げに口にした。多分彼女はコンビニで買物をしたかったのだろう。確かにパブが一軒と郵便局を兼ねた雑貨店が一軒あるのみの小村。田舎暮らしの豊かさを満喫している私は心穏やかではない。“どうか見えないモノや持たない事の価値に気づいて欲しい”と胸中で訴える。利便性がそれ程重要なのだろうか。Cotswoldsは特に交通の便が悪い。鉄道駅のある町は例外的で一時間に一本あるか否かのバス便が頼りとする。しかしもしも鉄道が走っていたらこの自然環境が現在の如く残存していないのは自明の理。歩行者を阻害する日本の自販機の如きモノは村々ではまず目にしない。我々も無い事の不便は全く感じない。美観上当然不認可の筈。ひき続き案内し説明していくうちに、無い事に不満であった彼女は、無い事に価値がある事実に意識が変化していった。「イギリスは空が広くて真っ青でとってもきれい。それに電線も電柱も一つも無いのね」と新しい発見に嬉しそうに発した。あの様な見苦しいモノを地中に埋めて隠す発想は先人の英断である。英国人はヴィクトリア時代より必要な施設や社会資本には莫大な投資をして後世に残してきた。将来も幾世代に亘り維持され評価を受けていく事と思う。

かつて領主が住んでいた館をManor House(マナーハウス)と呼ぶ。それを今日ホテル&レストランに改装したものがCotswoldsにも少なくない。私の一番のお気に入りのBuckland(バックランド)マナーは我家から車で15分の距離に在る。永年ル・エ・シャトーの会員であるから世界中から客は集まる。広々としたラウンジのソファに深く身を沈め紅茶を口に運ぶ。窓外に広がる優しい庭園を愛で乍ら豊かな時の流れに何もせずに身を任す。他に何組かカップルが寛いでいるが会話は耳に



Buckland Manor

届かない。静寂が辺りを包み込み、時おり14世紀の教会の鐘の音が響くのみ。秋冬ならばパキパキと暖炉の薪が弾ける音と赤い炎が温かく幸福にしてくれる。何もしない事が豊かであるし無音の状況が豊かさを増加してくれる。日本の客人にマナーハウスで楽しむフル・アフタヌーンティーの感想を尋ねると喜色満面で一言「至福のひとつときでした」が返ってきた。

Winchcombe ポタリイは Cotswolds で最も古い窯元である。現在 R. Finch (レイフィンチ) の孫に当る若い陶芸家が経営しているが、その作風は土のぬくもりを感じる益子焼をどこか彷彿させる。それもその筈人間国宝にして文化勲章受章者の浜田庄司がこの窯元を訪ねていたとは。彼の友人 B. Leach (バーナードリーチ) が帰国して St. Ives (セントアイヴス) に窯を造り創作を始める機会に同行し滞英していたのだ。Finch は Leach に師事した一人でもある。日本の“Arts & Crafts 運動”に当る“民芸”の主導者・浜田庄司と Leach が Winchcombe に足跡を残している事を識り何やら嬉しかった。



Winchcombe Pottery の窯元と陶芸品

そして私は確信した。彼は Kelmscot を自身の眼で見、肌で感じたくて Cotswolds を訪れたに違いない。モリスの心に触れたかったのだ。ここは本物であり、ここには彼の美の本質があるから。

本家“Arts & Crafts 運動”の主唱者 W. Morris (ウィリアム モリス) の創造活動の原点であり作品の inspiration の源は Cotswolds の自然美であり Kelmscot Manor (ケルムスコット マナー) である。彼が英国で最も美しい村と讃えた Bibury (パイプリー) の南に位置するモリス一色の村。彼は精力的に発信し運動しそして啓発して後世に残る偉業を達成した。その多岐に亘る作品は様々な所で鑑賞できる。Kelmscot Manor を家族のために見つけた時、狂喜して彼は「地上の天国」と友に書き送っている。

(筆者は、駐在員として旧西ドイツ、オーストラリア、ロンドン、ニューヨークで過ごし、その後コッツウォルズに16年、通算27年超の海外生活を経験)



William Morris は19世紀のイギリスの詩人でありデザイナー・社会運動家としても有名



W. Morris が住んでいた邸宅、Kelmscot Manor

『産業論特講』の取りまとめを進めています

福田順子 (1968年 経・経)

1993年度にスタートした「産業論特講Ⅰ・Ⅱ」は、前期（春学期）と後期（秋学期）の年2回、経済学部卒業生が科目を担当してきました。2021年度で29年目を迎えました。そこで、スタート時から現在までの、講義概要をとりまとめることにしました。

この科目が開講されることになったきっかけは、田中利見学部長（当時）の発想によるもので、学生に対する産業界の情報提供と、就職活動への支援に役立つ講義を、という考え方が根底にありました。加えて、ビジネス界で成功した先輩の話は、一方で現役学生には刺激を与え希望をもたらし、他方で、教える卒業生にとっては、母校での講義は少しの名誉になるだろうとの思いもあったそうです。約30年前に、すでにビジネス界で成功を取めた経済学部卒業生が存在していた、ということです。

経済学部の正式の科目とされる前に、「特別講義」の一つとして3年間、卒業生がビジネス界に関する講義を行っていました。そして1996年度からは、「産業論特講Ⅰ・Ⅱ」という科目名で経済学部の科目として開講されることになりました。登場した業界は、飲食、保険、半導体、銀行、新聞、環境経営、国際ビジネス、等々、多岐に亘っています。

「産業論特講」を担当する卒業生については、学部教員と経鷺会とが相談しながら選別したそうです。もちろん、教授会で担当する業界、内容のあらまし、担当者は検討され経済学部として了解された人材・業界・内容でした。科目担当になった人は、それなりに緊張したと思いますが、受講する学生にとっては、現役の成功したビジネスマンによる、実践的な内容と各業界の特徴や最先端の話が提供されますので、専任の教員の話とは一味違ったワクワク感があったでしょうし、将来を考えるのに大いに役立ったと思います。

29年を経て、継続したヒストリー（50回・開講されなかった年度あり）として、科目の総括を始めました。現在、取りまとめを行っていますが、1992年度から2004年度までは「シラバス」が導入されておりませんでしたので、当時の学生に配布される印刷物の「講義概要」をもとに、手作業でデータの整理・入力をしております。2004年度からは公表されているシラバスを掲載します。4月中には完成できる予定です。完成しましたら、経鷺会のホームページにてお知らせいたします。

（経鷺会副会長）

母校の学生支援のために

戸川 清 (1971年 経・経)

◆募金に対する疑問

皆さまは上智大学やソフィア会から届く会報と共に「募金」の振り込み用紙を何枚か発見して「いったいどれに寄付をすれば良いのだろうか?」「未来募金や維持会費って何に使われているんだろう?」「経鷺会からも、ソフィア経済人クラブからも寄付の要請がくるけど…」と疑問を抱かれたことはないでしょうか。正直なところ私は毎回悩んでおりました。仕事が忙しい現役時代は募金など全く気にも止めず知らないうちに忘れてしまう事も度々ありました。多額の寄付をすれば、大学構内に名前が刻まれるとか、6号館講堂の椅子の背に名前が刻まれる、という案内は読んで自分とはあまり関係ないと流してしまうことがほとんどでした。

現役時代は海外勤務が続きあまり母校に近づか

なかった私が、上智大学創立100周年記念の募金委員を拝命し、当時所属していた企業グループからの募金集めを担当したのをきっかけに、たびたび四谷キャンパスに足を運ぶようになりました。昨年の秋にソフィア会の常任委員として募金委員会を担当するようになってからは、自分自身が上智大学とソフィア会の行っている募金活動の実態について、あまりにも何も分かっていないことを痛感しました。何年も常任委員を務めて来られた方々のご協力を得て、ようやく少しずつ各種の募金の違いと用途が理解できるようになって来たのが正直なところでした。Economyan 読者の皆さまの中には「そんな事はとうに知ってるわい」「何を今更…」「そんなことも知らん奴が常任委員をやってるのか」と呆れておられる方も当然いらっしゃる



と思います。各方面からお叱りをいただく事を覚悟して、僣越ながら私がこの数ヶ月で上智大学とソフィア会の募金活動について学んだこと、そして自分が考える募金活動のありたい姿をここに書かせていただくことにしました。私と同様に少しでも募金について疑問やお悩みをお持ちの方々の参考になれば幸いです。

◆ソフィア会の活動内容

募金についてお話しする前に、ソフィア会の活動内容について少しご説明します。ソフィア会はご存知の通り、上智大学を卒業された皆さまお一人お一人が会員として「会員相互の親睦と母校への貢献」を目的として活動する場です。決して一部の会員が特権意識を持って活動するためのものではありません。会員の皆さまから代議員が選出され、春と秋の年2回開催される全国代議員会でソフィア会運営の大方針が決定されます。さらにボランティアで常任委員となった人々が、代議員会に向けて準備をしたり、各専門委員会、例えば、事業企画委員会、広報委員会、学生支援・奨学金委員会、組織委員会、国際委員会など、を担当して円滑な会の運営と、会員の皆さまへの奉仕活動に日々努力しています。募金委員会もその専門委員会の一つです。ソフィア会の活動範囲は、会報である「ソフィアンズナウ」の発行と皆さまのお手元への配布、「オールソフィアンの集い (ASF)」 「オールソフィアンのクリスマス (ASC)」などのイベントの開催、各界で活躍されているソフィアンによる講演会の開催、在学生への奨学金の給付やクラブ活動への支援、学部学科同窓会活動の支援、国内外の地域ソフィア会との交流支援、各種の社会貢献活動支援、ソフィアンズクラブの運営、ソフィア会事務局の運営などなど多岐にわたっています。

◆ソフィア会奨学基金の設立

これらのソフィア会活動に必要とされる原資は、主として「終身会費 = 在学生が最終年時の学費納入の際に一括して納める会費」と「ソフィア会維持会費 (運営協力費) = 会員の皆さんに任意で収めていただく会費」です。2018年度の全国代議員会では、2017年4月以降の入学者を対象に「終身会費」を一人あたり2万円から4万円に改定を決議しました。この改定の目的の一つは、生活支援を必要とする学生や、グローバルな世界で活躍する人材を育成するための留学生支援をソフィア会独自の奨学金制度として創設するためです。2019年

春の全国代議員会で「ソフィア会奨学金制度」の創設と「ソフィア会奨学基金」の設置が決議され、同年秋の全国代議員会におけるこの基金への1億円の拠出承認を経て、2021年2月の学校法人上智学院理事会においてこの基金の設立が正式に承認されました。これまで2年間には、先行して22名の学生に対して合計683万円の給付を行いました。この奨学金の安定的かつ持続的な給付を実現するために、2029年度に2億円の基金残高を目指して、会員の皆さまから年間500万円を目標に「SOPHIA未来募金」にご寄付をお願いする募金活動を開始しています。

◆募金の種類と用途

さて、皆さまが目にする募金のご案内には大きく分けて「SOPHIA未来募金」と「ソフィア会維持会費 (運営協力費)」の二つがあると思います。「SOPHIA未来募金」は上智大学による募金活動で学校法人上智学院に寄付するものです。上智学院三校 (上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校) の教育活動を支えるためのもので、具体的な用途の指定ができ、税制上の優遇措置があります。上智大学では大きく①教育研究支援、②学生の就学支援、③教育研究環境整備支援と用途の指定先をホームページに掲げていますが、ソフィア会会員の皆様には、特に「ソフィア会奨学基金」と用途を指定することによって、卒業生が支援する学生への奨学金として上述の年間500万円の目標に向けたご寄付をいただくことができます。

一方「ソフィア会維持会費 (運営協力費)」は上述の各種の活動に使われるほか、母校の発展に貢献するため学生への奨学金給付、課外活動やキャリア支援などにも使われています (図1をご参照ください)。寄付していただく先が任意団体のソフィア会であるため税制上の優遇措置はございま

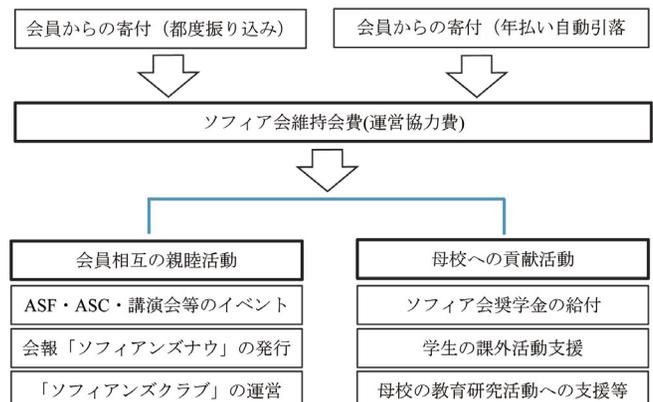
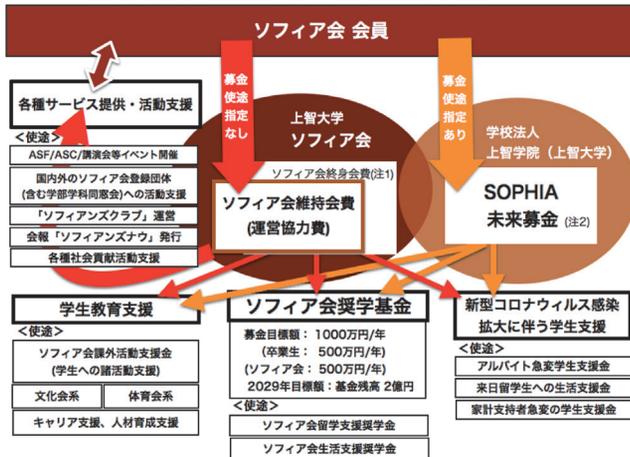


図1

せんが、ソフィア会の活動の持続的運営の財源として迅速かつ機動的に使われています。さらに2020年度からは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う学生支援にも積極的に協力しています。

「SOPHIA 未来募金」と「ソフィア会維持会費（運営協力費）」の使途の詳細については、図2をご参照ください。やや煩雑な図で恐縮ですが、私自身の頭の整理も兼ねて描いてみるとこんな図になりました。「ソフィア会維持会費（運営協力費）」もお金のかかる会報の発行と配布をはじめとして、講演会等のイベント開催支援から各学部学科同窓会への活動支援等、ソフィア会事務局の運営に至るまで、財務部門の主導による各年度の予算管理と監事による厳しい監査を受けながら各専門委員会管理運用しています。

＜維持会費(運営協力費)とSOPHIA未来募金の使途＞



(注1)ソフィア会終身会費は在学生が最終年次の学費納入の際に一括して納めるもので、卒業生の皆様からのソフィア会維持会費(運営協力費)と同様にソフィア会の予算に組み込まれ、全国協議会での承認に基づき各使途に使われています。
 (注2)SOPHIA未来募金へのご寄付は皆様のご意思に沿って使途をご指定いただくことが出来、上図には記載されておりませんが、各学部・学科の在学生のための奨学金支援等にも使われています。

図2

◆経鷲会の経済学部への貢献

経鷲会でも会員の皆さまには会費のご協力や研究奨励金へのご寄付をいただいておりますが、これらの使途は図3にご説明の通り、会費はそのほとんどがこの会報「Economyan」の発行と配布に使われています。会員相互の親睦を目的とした諸活動や勉強会にかかる費用は、都度、個人で実費をご精算いただき、また、勉強会ではボランティアの講師に無償での講義をお願いして参りました。上智大学経済学部とは、研究奨励金として皆さまにご寄付いただいた全額を現状では年間50万円の給付を行うほか、これまでは単位取得科目である「産業論特講II」に、実業界で活躍した卒業生に非常勤講師としてご協力いただいたり、定期的な経

学部学科同窓会会員による寄付とその使途（経済学部同窓会『経鷲会』の例）

経鷲会の場合、①年会費(3000円)、②研究奨励金(一口2000円)、③寄付金(任意)の4種類を払込取扱票に記載し、振込で頂く形を取っています。今後、銀行口座振込や電子マネーでの振込などの比率が増えることが予想されます。

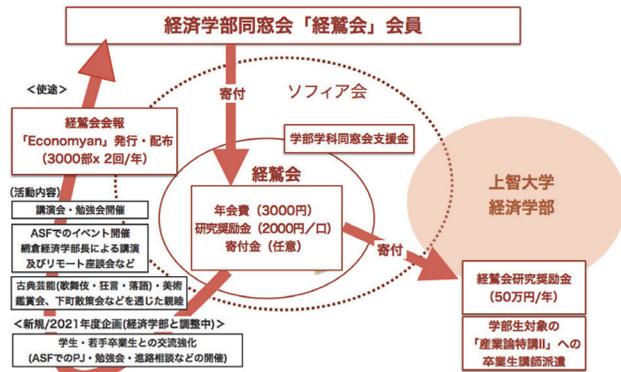


図3

済学部長、学科長の先生方との交流会を持って有意義な時間を共有させていただいております。

◆皆さまのご協力をお願い申し上げます

ここまで退屈な募金に関する話を辛抱強くお読みいただきありがとうございます。

ソフィア会も経済学部同窓会「経鷲会」も会員の皆さまお一人お一人のための活動です。今はコロナ禍の不自由な生活から完全に抜け出せておらず、オールソフィアンの集いも今年はまたオンライン開催となってしまいました。コロナ禍が収束した折にはぜひ四谷キャンパスに足をお運びいただき、6号館6階の「ソフィアズクラブ」で学生時代の仲間たちと楽しい時間を過ごしましょう。上智大学がそして経済学部がグローバルな世界に貢献できる人材を育み、輩出する大学としてより一層発展するためには、会員の皆さまによる諸活動への積極的なご参加と暖かいご協力は欠かせません。懐かしいレンガ造りの1号館校舎を見るたびに、1932年に日本で布教活動をしていたブルノー・ビッテル神父が、この1号館建設のためにドイツのケルンに募金活動拠点を置いて、ドイツ国内のみならずオランダ、フランス、アメリカなどのカトリック教会や学校あてに、レンガの絵を描いたレンガひとつ1マルクの「レンガ募金」で資金を集めたという逸話を思い出します。募金委員のひとりとしては、これが上智大学の募金活動の原点だと思っています。ソフィア会ホームページの募金欄にはより細かな情報が掲載されていますので是非ご一読いただきたく。

何卒よろしくご協力申し上げます。

(経鷲会副会長、ソフィア会常任委員 募金委員長)



経鷲会会員の皆様

経鷲会会長 田村 隆

5月30日(日)のAll Sophians' Festivalは、ソフィア会の方針によりオンラインでの開催となります。経鷲会としては、“経鷲会 Forum”と題してZoomでの開催となります。

登壇者全員を1つの教室に集めて行うつもりでしたが、新型コロナの現状を鑑み、登壇者の皆さんの安全を第一に考え、参加者は自宅からの参加となります。

時間は、13:00～14:30を予定し、500名の参加が可能です。技術的な問題から、こちらからの一方通行となります。

参加方法等の詳細につきましては、メール、ソフィア会のHPの経鷲会、FACEBOOKの上智大学経鷲会にてお知らせいたします。

ご登壇いただくのは、経済学部長の網倉久永先生、経済学科3年の野末さん、経営学科3年の清水君。研究奨励金受賞者で中国からの留学生、王さん(留学生として初めての受賞者)。経鷲会からは、会長の田村、副会長の三輪、角井を予定しております。司会は蟹瀬誠一さん(1974年新聞学科卒業)にご担当いただきます。

網倉先生には経済学部の現状をお話いただき、会長の田村からは経鷲会の現状を説明させて頂く予定です。

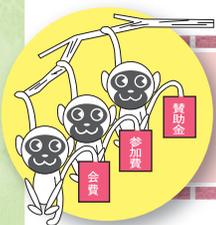
その後、在学生の声、留学生として上智で学んだことなど、生の話を聞きながら、経済学部の今昔を感じたり、現在の発展を知ったりしながら、経鷲会としての今後の方向性を探っていきたいと思います。

エコノミアン編集雑記

『ソフィアの鷲 その⑥』

初めに、前号 Economyan No.59では、ご寄稿いただきました経済学部の杉谷陽子先生のタイトルを経営学科長と書くべきところ経済学科長と誤記してしまいました。杉谷先生、まことに申し訳ございませんでした。編集者としての不注意を猛省し、改めて深くお詫び申し上げます。

さて、国の内外で日本人アスリートの活躍が報じられています。2月の全豪テニスでの大坂なおみ選手の優勝に始まり、4月に入って、難病を克服した池江璃花子さんが水泳の日本選手権で復活し、メジャーリーグでも大谷翔平選手の2刀流復活、さらにジョージア州オーガスタで行われたゴルフのマスターズ・トーナメントでは松山英樹選手が日本人プロゴルファー初の優勝、と明るい話題が続き嬉しい限りです。一方で、新型コロナウイルス感染リスクも変異株の拡大が全国に広がりつつあり、不安が払拭できないもどかしさを感じるばかりですね。外出を控え、手洗い消毒を徹底し、マスクを外さない、というのは日常化していますが、それ以外は早くワクチン接種が普及してくれるのを待つことしかできません。上智大学では昨年出来なかった2020年の新入生の入学式が、約1年遅れて今年の3月に行われました。4月からはリモートとリアルの授業を並行して新学期が始まりましたが、感染拡大の第4波が心配される中で、またまたソフィアの若き鷲たちの授業への影響が心配です。 戸川 清 (1971年経・経)



－年会費納入のお願い－

同封の「払込票」にて年会費3,000円の払込をお願い致します。あわせて、寄付金によるご支援・ご協力をお願い申し上げます。